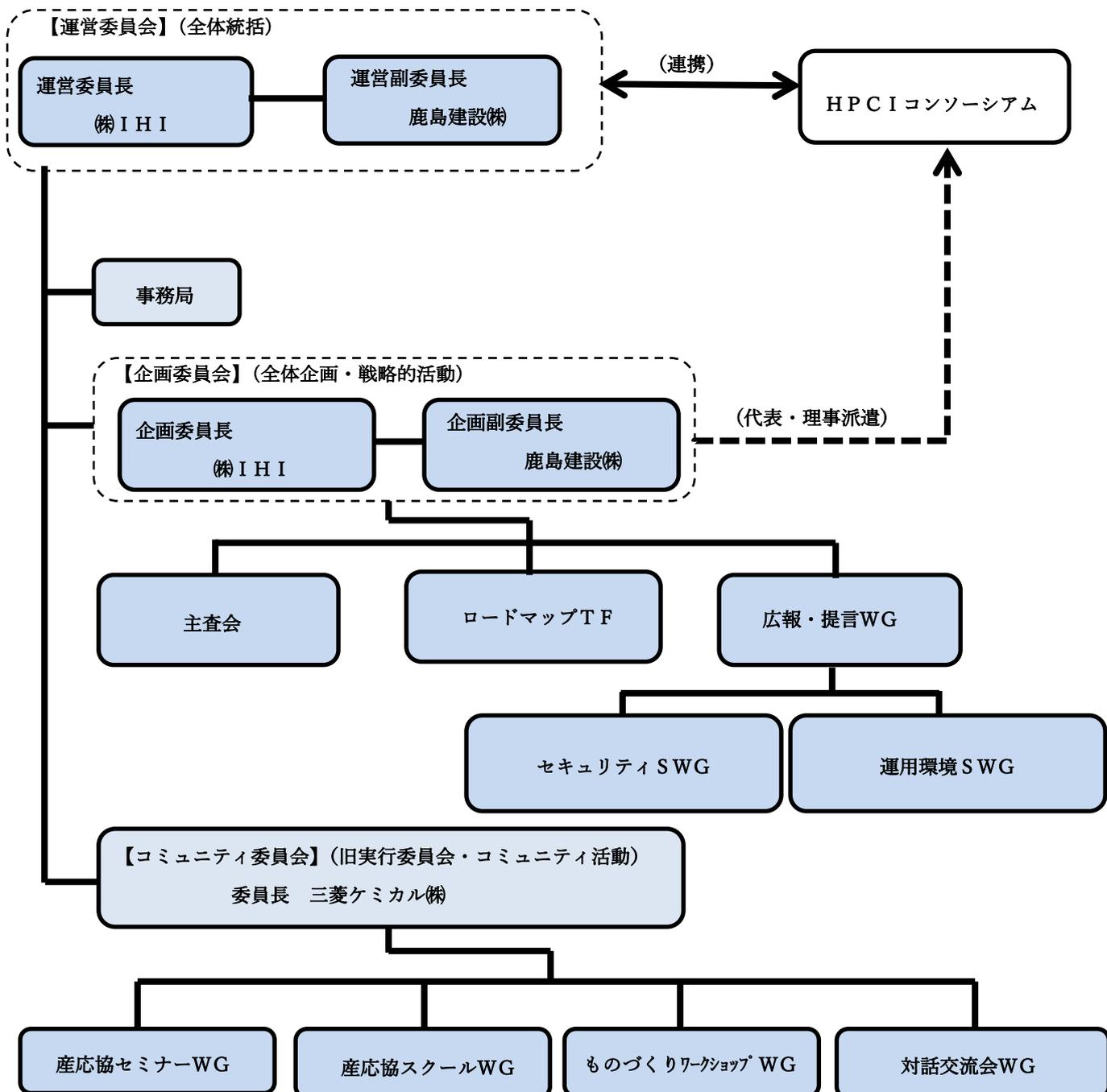


2018 年度活動概要報告

1. 活動概要

2018 年度は運営委員会の元、企画委員会が全体企画・戦略的活動を進め、実行委員会はコミュニティ委員会と名称変更し、コミュニティ活動を進めた。各活動は昨年度から引き続きWGを中心とした組織で進めたが、各WGを束ねる主査会を設けることにより、スムーズな活動展開が行われた。

2018 年度活動体制図



2. 実施内容および主な成果

2-1. 戦略的活動

2-1-1. 主査会

各WGの活動状況の情報共有と、産応協全体の活動趣旨に各WGのベクトルを合わせることを主目的に今年度より設置された主査会は、2018年4月と2019年2月の2回開催された。4月には、2018年度の活動計画のすり合わせ、2019年2月には、2019年度の運営体制や活動計画等について、協議された。

2-1-2. 広報・提言WG

(1) 活動概要

数名の企画委員、コミュニティ委員によるステアリングチームを立ち上げ、2017年度に課題として取り上げられた①情報セキュリティ及び②運用環境（大規模データハンドリング）について、高度情報科学技術研究機構（RIST）と共に検討を加えた。また、会員企業に向けて、ポスト「京」利用支援に向けたアンケート調査を実施し、2018年度の提言書案を作成し、2019年5月に開催される運営委員会に諮ることとなった。

(2) 成果

情報セキュリティの課題については、HPCI加盟の各情報基盤センターと意見交換を行い、セキュリティ・チェックシートを作成した。（現在会員企業向けに公開準備中）運用環境については、HPCIの運用を掌るRISTとの意見交換により、既に様々な対策が取られていることが判明したため、暫く様子を見ることになった。

(3) 提言

2018年度中に行った提言は、以下の通り。（内容詳細は[こちら](#)を参照）

- ポスト「京」の着実な推進および移行期のHPCI産業利用について（2018.7.26発表）
- ポスト「京」の利活用促進に向けた産業界からの提言（2018.12.20発表）

2-1-3. 産業シミュレーション・ロードマップ

(1) 活動概要

産業向けのシミュレーション・ロードマップのまとめを行い、関係各所に説明と意見ヒアリングを実施。今後の改版に向けての計画を作成した。

(2) 成果

12月19日開催の第11回スーパーコンピューティング技術産業応用シンポジウムにおいて、成果を発表した。内容詳細については、Webにおいても公開済のため、[こちら](#)を参照されたい。

2-2. 第11回スーパーコンピューティング技術産業応用シンポジウム

2018年度の第11回スーパーコンピューティング技術産業応用シンポジウムは、企画委員、コミュニティ委員より10名が参加した準備WGにより計画・企画を進めた。今回のテーマは、産業シミュレーション・ロードマップの公開にタイミングを合わせ、「HPCが拓く未来のものづくり～産業シミュレーション・ロードマップとHPC将来展望」とした。詳細は以下の通り。

- ① 開催日時：2018年12月19日（水）13：00～17：30
- ② 開催場所：御茶ノ水ソラシティ・カンファレンスセンター
- ③ 参加者数：137名

2-3. コミュニティ活動

2-3-1. 産応協セミナー

毎回、様々なテーマで開催しているセミナーは、今年度より従来名称の「スパコンセミナー」から近年のテーマニーズの広がりに合わせて、「産応協セミナー」と改め、今まで以上に役立つセミナーとなるようテーマ選定を心がけ、3回開催した。詳細は以下の通り。

	開催月日	テーマ	参加人数
1	2018年7月30日	量子コンピュータ	80名
2	2018年11月28日	機械学習	50名
3	2019年2月18日	材料・化学分野における将来のシミュレーション技術の展望	40名

2-3-2. 産応協スクール

スクールにおいても、従来名称の「HPC産業利用スクール」から、「産応協スクール」と改め、3回開催した。今回より一部のテーマをセミナーと連動させ、セミナーで理論を理解し、スクールで実際にやってみる、という流れを作ることにした。詳細は以下の通り。

	開催月日	テーマ	参加人数
1	2018年7月19日～20日	粒子法	15名
2	2018年10月4日～5日	機械学習	20名
3	2019年3月7日～8日	機械学習	17名

2-3-3. HPCものづくりWS

第10回ワークショップを7月6日に東京大学生産技術研究所で開催。一昨年度より取り組んでいるボックスファンによるシミュレーション・ソフトのベンチマークテストは、12の企業（機関）が参加し、7つのアプリケーションを用い、14の結果を蓄積することができた。これらの成果は、参加者の間で共有され、3件の学会発表に活用された。

今後は、複合材を素材としたFEMベンチマークを実施する計画で、参加者を募っている。

2-3-4. 対話交流会

2018年度からコミュニティ活動としてスタートした対話交流会であるが、今年度は手始めとして対話交流する相手先の検討を行った。この活動の目的が、産応協活動の認知拡大と、他団体との意見交流を通じて提言活動等他の活動テーマのヒントを見つけることにあるため、そのような観点から相手先を選定している。

3. 総括

- 各活動とも主査を中心に委員が積極的に活動し、年初計画をほぼ達成できた。
- 戦略的活動は、それぞれ具体的なアウトプットを出すことができ、文部科学省や関連機関とも積極的な意見交換が行われ、大変有意義な活動ができたと思われる。
- コミュニティ活動については、セミナー、スクールの名称変更を行い、テーマの幅を広げたため、より参加しやすいイベントが提供できたと思われる。